

平成29年度 社会福祉法人 福寿会 事業報告

社会福祉法人福寿会の現状に関する事項

(1) 事業の経過と概要

平成29年度福寿会は、社会福祉法人の制度改革における組織運営のガバナンス強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の向上、地域における公益的な取り組みを実施する責務等につきまして、積極的に取り組みを進めてまいりました。今回の改正は、介護保険制度の導入以来の大きな制度改革ではありましたが、専門家の指導のもと、諸規程の改正等何とか対応することができました。

平成29年度は、平城園の老朽化に伴う建て替え「平城園新築工事」という大規模な事業がスタートいたしました。平成29年においては、既存改修工事、既存解体工事（デイ・東棟）、本体新築工事ということで、ご利用者が旧施設にお住み頂きながらの工事となりました。ご利用者、近隣の皆様への安心安全対策を第一に考え、法人一丸となって取り組んでまいりました。まだまだ、工事は半ばではありますので、完成まで万全の態勢で努めたいと思っております。（工事報告別添）

各事業所とも、新築工事という大きな事業を抱えながらも、法人全体で、できる限り少しでも収益を上げるよう努めました。しかし、4月1日より、ならやま園で仮営業をしておりました『奈良デイサービス』につきましては、収益ダウンのため、12月末をもって、新築後まで一旦事業を休止といたしました。ご利用者には、ご迷惑をおかけしないよう最大限の対応をさせていただきました。ならやま園は、ほぼ例年並みのサービス活動収益でしたが、平城園はデイが休止となったのを始め、在宅サービスの活動収益の前年度比の大幅なダウンが目立ちました。特養においては、常に空床がでないよう気を付け稼働率をキープすることができました。平城園の完成まで、職員一同で何とか現状維持に努めたいと思っております。

サービス向上の取り組みとしましては、人材育成として、外部講師を招き、法人研修に力を入れてまいりました。ハード面を見直すことで、ご利用者がより過ごしやすい空間で快適に過ごして頂けるよう、ソフト面両面での高品質なサービスを提供できるよう努めました。

また、施設外研修にも多くの職員が積極的に参加し、研修発表等、自発的にスキルアップにも努めました。

人材の確保については、平成29年度は、若干退職者があり、その補充に苦心しましたが、大学や各種学校との連携を深め、人材の掘り起こしに力を入れていきたいと思っております。

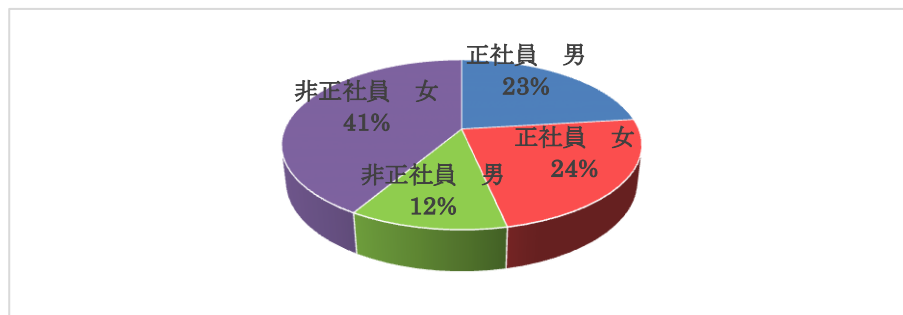
地域における公益的な取り組みについては、「コミュニティバス」として、西大寺駅、高の原駅への往復の送迎バスを時刻を決めて出しております。現在のところは、福寿会の関係者が、1日数名、木曜、金曜以外の利用となっておりますが、今後は、地域に向けてご利用いただけるよう努めていきたいと考えております。

(2) 職員の状況

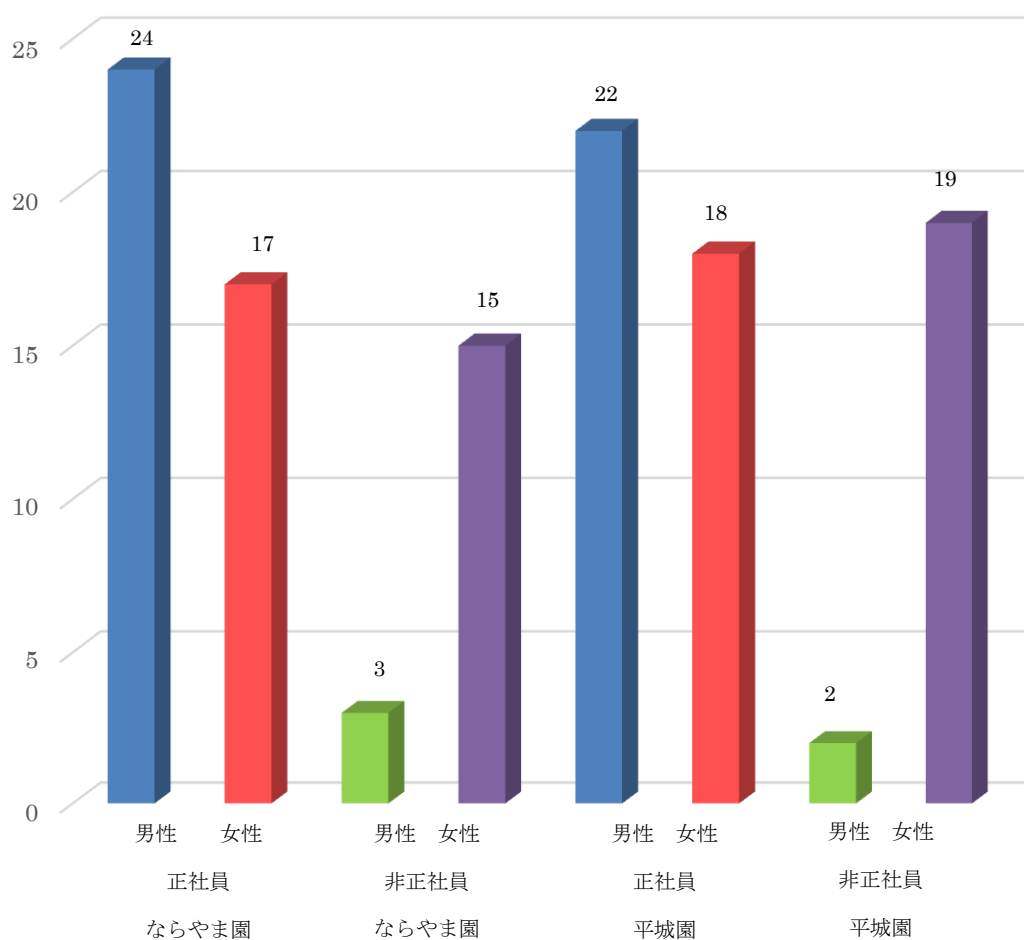
平成30年3月31日現在における職員数は、正職員117人、非正職員134人あわせて251人です。

	ならやま園	平城園	本部ほか	計
正職員	63	53	1	117
非正職員	59	61	14	134
計	122	114	15	251

① 職員 男女比 (全職員)



② 特養職員配置 (介護職員+看護職員)



(3) 理事会及び評議員会

理事会

開催日	主な審議事項	出席
平成 29 年 6 月 8 日 (木)	諸規定の改正について 平成 28 年度事業報告並びに決算について 平城園新築工事の入札について 社会福祉充実計画について定時評議員会の招集について 新理事・監事の選任について 理事長の業務執行状況について	理事 5 名 監事 2 名
平成 29 年 6 月 22 日 (木)	理事長の選定について 平城園新築工事の予定価格について	理事 6 名 監事 1 名
平成 30 年 3 月 17 日 (土)	平成 29 年度補正予算について 平成 30 年度事業計画並びに収支予算について 定款の一部変更について 諸規程の一部改正について 平城園新築工事における物品購入等についての指名競争入札について 平成 29 年度第 2 回評議員会の招集について 理事長の業務執行状況について	理事 6 名 監事 2 名

評議員会

開催日	主な審議事項	出席
平成 29 年 6 月 22 日 (木) 定時評議員会	平成 28 年度事業報告並びに決算について 社会福祉充実計画について 理事・監事の選定について 役員及び評議員の報酬等支給基準について 理事長の業務執行状況について	7 名
平成 30 年 3 月 29 日 (木)	平成 29 年度補正予算について 平成 30 年度事業計画並びに収支予算について 定款の一部変更について 理事長の業務執行状況について	6 名

(4) 部門別報告

特別養護老人ホームならやま園 (定員 84 名)

○介護部門

(1) 利用者の「その方らしい」生活の援助について

個々の価値観が多様になる中で、施設に入所をしても不自由なく「その方らしい」生活ができるように職員に研修を行い、面談を通してその意義を伝えた。職員の見線ではなく、利用者の立場に立った援助ができるように、今後も援助の在り方を検討し続けたい。

(2) 働きやすい魅力的な職場作りについて

過去2年においては職員の離職はなかったが、今年度は女性職員の結婚退職、産休・育休の取得も有り、介護の現場での職員の充足が難しい時期もあった。

現在休職中の職員については、復帰しやすい環境作りに取り組んでいる。介護の現場では、今後も人材不足が指摘されているが、離職の少ない魅力的な職場作りを目指し、安定した人材を確保していきたい。

(3) リーダー・サブリーダーの育成について

介護の現場において指導層の育成は喫緊の課題と考えている。今年度は新たにリーダーが2名、サブリーダーが4名就任した。新たな人員が加わった時に、介護の仕事の意義を伝えることができるリーダー・サブリーダーを今後も育成していきたい。

(4) 「地域包括ケア」における特養の役割について

地域の包括支援センター、在宅の事業所、病院、自治会と連携を取り、地域で生活をされている方の相談にのっている。高齢者の急激な増加が見込まれる2025年に向けて、今後も信頼関係を構築していきたい。

(5) 地域の防災拠点としての役割を果たすについて

今年度から活動をしている「災害対策委員会」により、施設における①地震災害②風水害③土砂災害に対する計画書が完成した。大規模な災害が起こっても、職員一人ひとりが落ち着いて行動できるように、訓練などを通して浸透を図っていきたい。また今年度については地域の方との連携も行っていきたいと考えている。

①在園年数 (H30.3.31 現在)

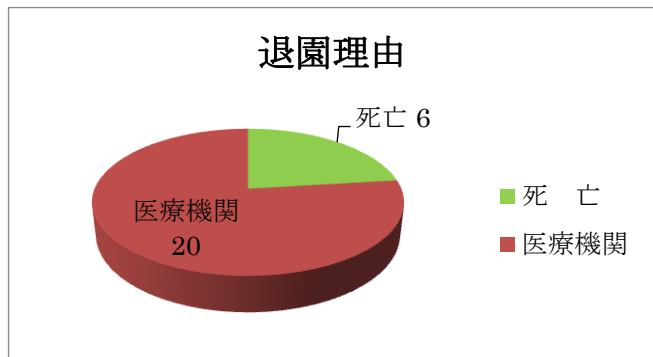
	1年未満	1年～ 3年未	3年～ 5年未	5年～ 7年未	7年～ 10年未	10年以上	計
男性	4名	1名	1名	1名	0名	0名	7名
女性	21名	19名	19名	5名	3名	9名	76名
合計	25名	20名	20名	6名	3名	9名	83名

②入所者年齢構成 (H30.3.31現在)

区分	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男性	1名	0名	0名	2名	3名	2名	3名	0名	11名
女性	0名	0名	4名	9名	23名	24名	8名	4名	72名
合計	1名	0名	4名	11名	26名	26名	11名	4名	83名

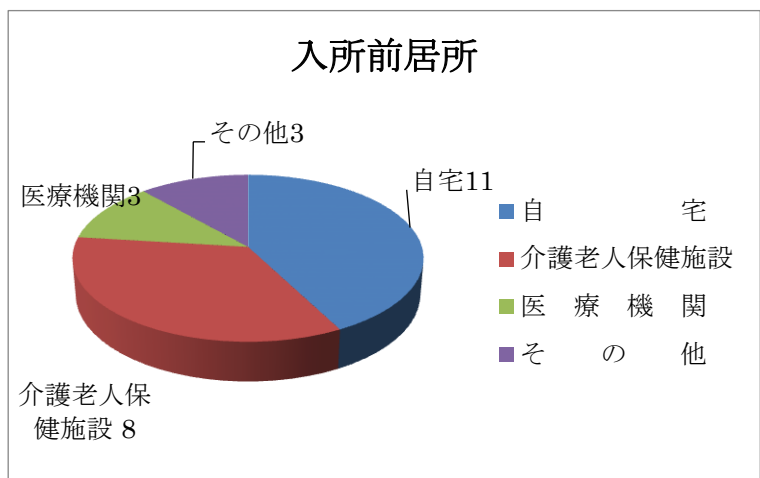
最低・最高年齢 (H30.3.31現在)

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	66歳	96歳	87.2歳
女性	75歳	102歳	89.4歳



入退園の状況 (年間)

	性別	年間合計
新規入居者数	男性	6人
	女性	20人
退去者数	男性	7人
	女性	19人



③入園者介護度別延べ人数 (従来型)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	介護度平均
29年度	0	0	3,766	7,799	6,870	18,435	4.15
28年度	0	0	4,312	5,945	8,931	19,188	4.14

(ユニット型)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	介護度平均
29年度	0	0	2,712	4,116	3,692	10,520	4.07
28年度	0	0	3,649	3,611	3,340	10,600	3.96

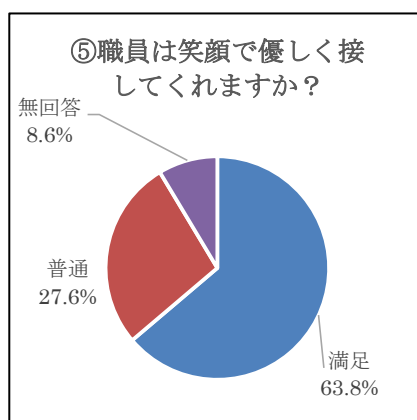
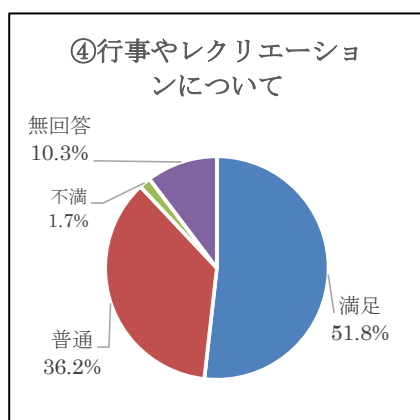
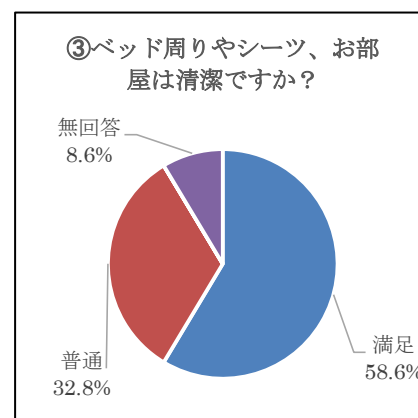
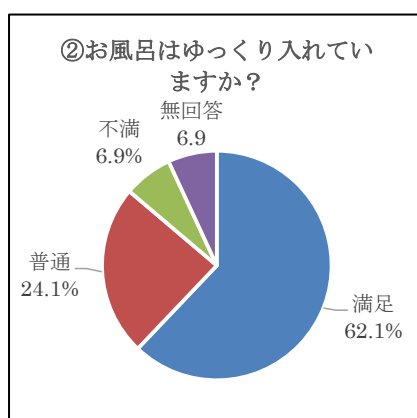
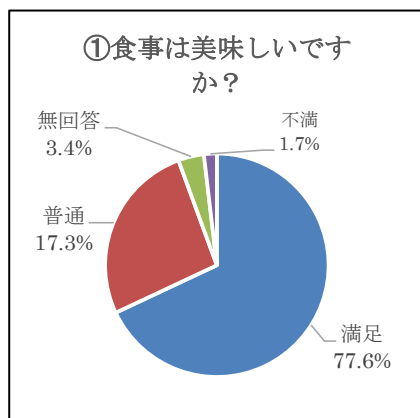
④入園待機者状況 (H30. 3. 31 現在)

区分		合計	待機場所別					待機期間別			
			在宅	病院	老健	養護	その他	1～6月	6～1年	1年～	その他
県内	市内	182	100	36	29	1	16	23	26	133	0
	市外	18	6	2	8	0	2	3	3	12	0
県外		33	10	7	12	0	4	3	3	27	0
合計		233	116	45	49	1	22	29	32	172	0

◇ 特養 満足度調査

ならやま園では利用者の生活向上、職員の意識向上のために毎年、利用者から満足度調査を行っている。今年度の結果を報告する。

※下記5項目について、1.満足 2.普通 3.不満 4.無回答 の4段階評価にて回答してもらった。
(平成 29 年 3 月実施)



* 平成 28 年度に比べ 5 項目について「満足」の評価が上昇している。平成 30 年度も利用者の満足度を高めていきたい。

○医療・看護部門

(1) 感染症対策の充実

昨年度のインフルエンザ施設内感染を受け、今年度の対策として、「換気」を重点的に行った。10時30分と15時30分に館内放送で換気を促して食堂を換気し、利用者が居室から離れる際には居室を換気するようにした。結果、入園者のインフルエンザ発症者はなかった。職員の罹患者は数名出たが、出勤停止の対応を取り、施設内での感染はなかった。感染症対策会議を定期的に行い、情報の共有に努めた。

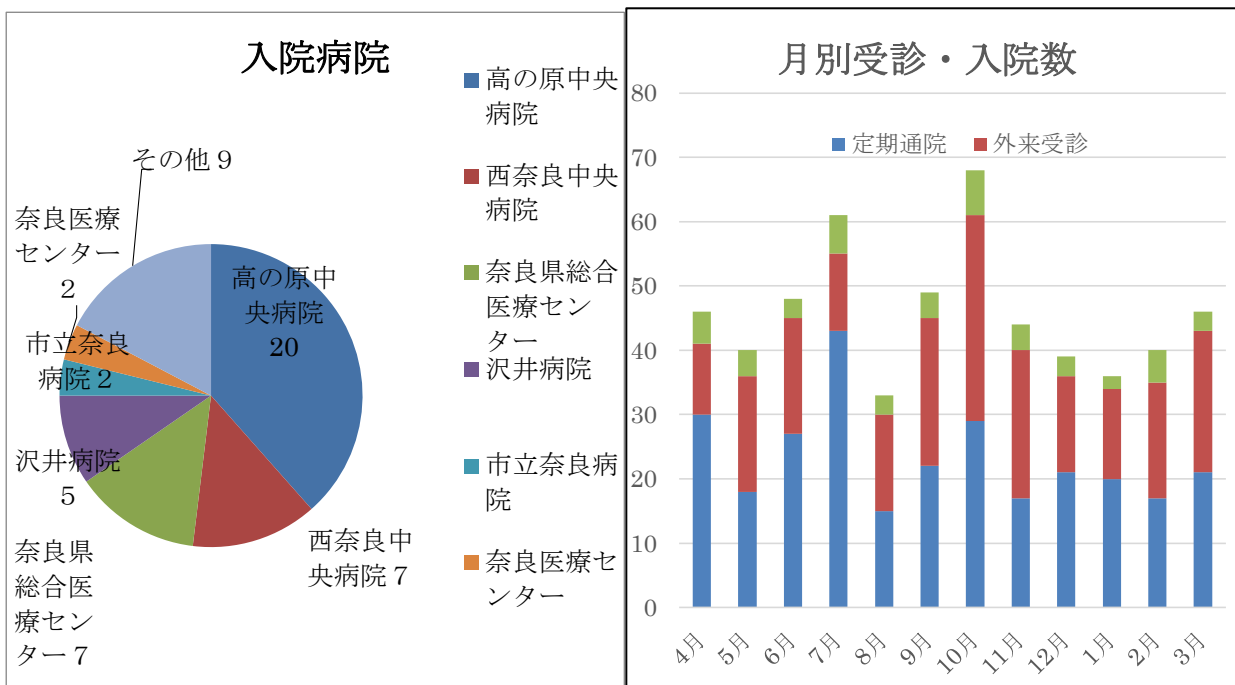
手洗いは、習慣的に行うところまではできておらず、今後の課題である。

(2) 職員の健康管理

メンタルヘルスチェック受検が2年目を迎え、受検者は昨年の56名から35名に減少した。健康診断は、夜勤者は2回/年、その他の職員は1回/年行い、保健指導が必要な職員は医師より指導があった。

(3) 利用者の健康管理

基礎疾患をもち、医療機関の定期外来通院者は23.3名/月と昨年度と横ばいであった。入院者数は延べ50名で昨年度より、微増した。同利用者の複数入院が増えており、基礎疾患の増悪が主な原因である。昨年同様、高の原中央病院へ入院が多く、近隣の医療機関の依頼することが多い。



○個別機能訓練部門

今年度も定期的に理学療法士の指導を受け、職員間で内容を共有し、心身状態に応じた個別機能訓練計画書を立案することができた。また、計画書に添って身体機能の維持、拘縮予防等に継続して取り組むため、他職種と連携を図り協同で実施、評価をする事ができた。

機能訓練状況（介護職員担当の生活の中での活動を含む 平成 30 年 3 月 31 日現在）

	既存 2F	既存 3F	ロータス和	ロータス悠
集団体操	17	17	9	12
歩行訓練	12	8	7	9
立位訓練	12	12	6	8
筋力増強訓練	12	10	9	11
体重移動訓練	1	1	2	2
離床	5	11	6	2
滑車	0	8	設置なし	設置なし
車椅子自操	7	2	3	6
関節可動域訓練	8	18	3	3
ポジショニング	6	12	5	2

○栄養管理部門

(1) 栄養ケア・マネジメントの実施による利用者の健康維持

個々の利用者の状況に対応した個別対応の食事提供ができるよう多職種協働で取り組んできた。食事療法が必要な方には療養食の提供も行っている。カンファレンスにも参加し、特養利用者全員に栄養ケア・マネジメントを実施できた。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組んでいきたい。

(2) 家庭的で季節感のある食事や行事食の提供

食事からも日常生活に楽しみや変化を持って頂けるよう、誕生食、好み食、選択食、行事食、おやつレクリエーションなどを行ってきた。10 月より厨房の委託業者が変更になったが、委託業者や他部署と十分話し合いを行い、滞りなく食事提供を行うことができた。

(3) 利用者の嗜好や嚥下状態を把握した食事内容

喫食状況を見せて頂いたり会話をすることで要望を把握し、献立内容に反映させるよう取り組んできた。配食サービスが今年度より法人で一本化された。配食職員との連絡を密にし、個別対応についても円滑に移行することができた。ケアハウスで行った嗜好調査（満足度調査）では平均 80.1 点を頂いた。今後も食事内容の向上に努めていきたい。

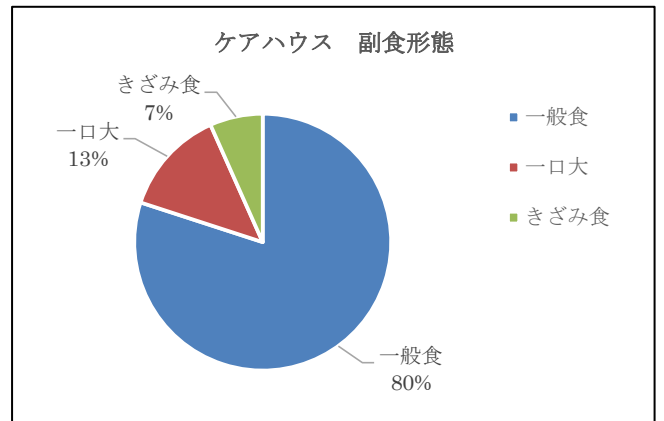
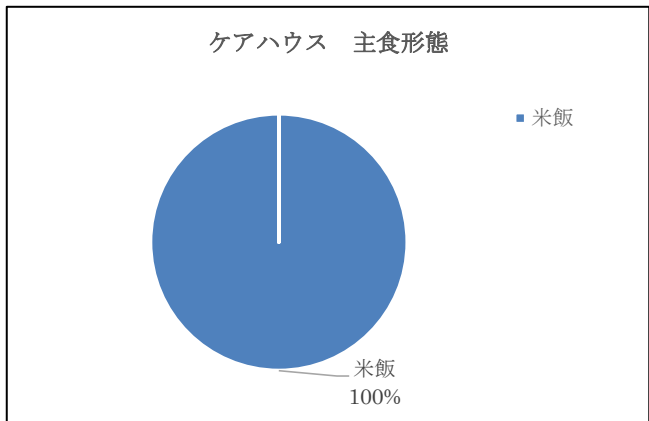
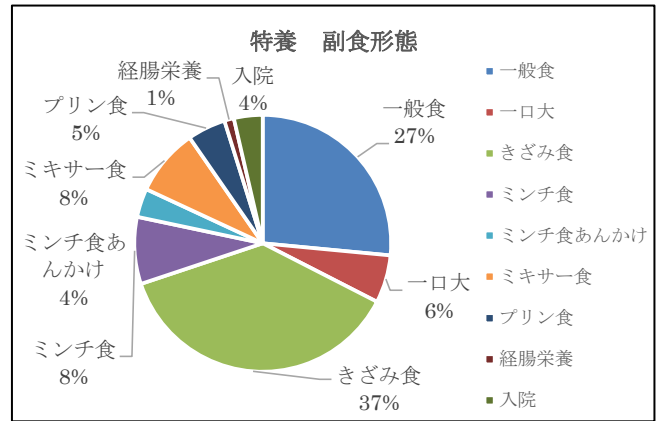
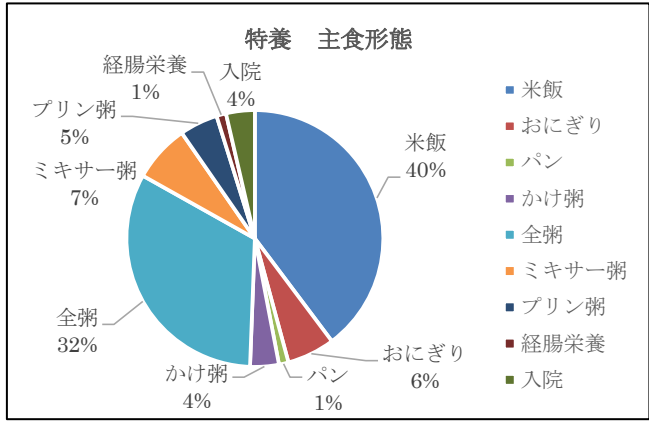
(4) 食中毒予防・感染症対策・安全な食事の提供

安全な食材の使用と大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。感染症対策委員会への参加や施設内研修を行い、施設全体での取り組みも行うことができた。

(5) 非常食・使い捨て容器の備蓄と非常災害時の備え

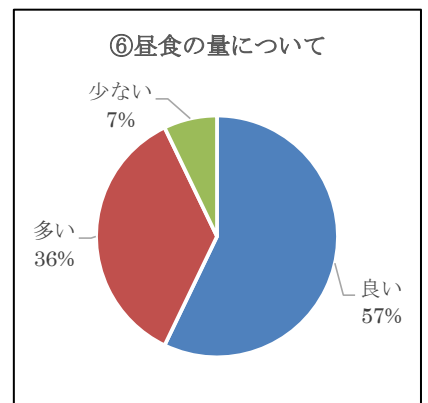
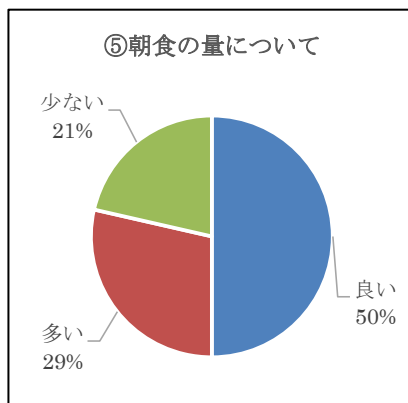
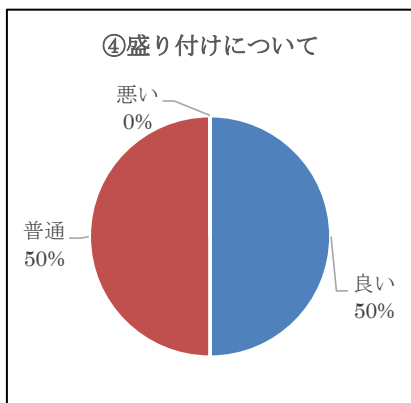
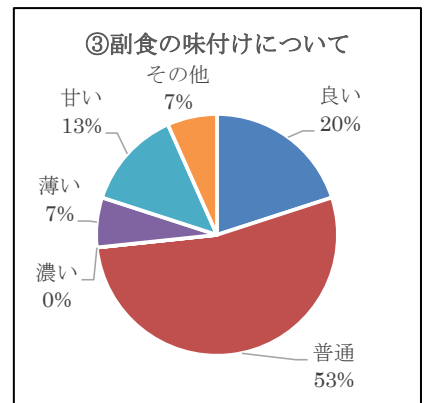
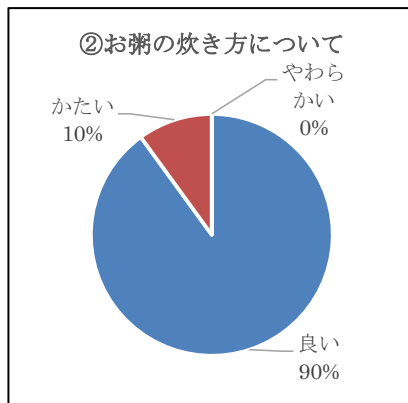
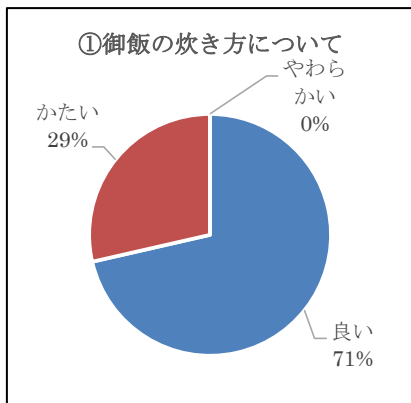
利用者 3 日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。又、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

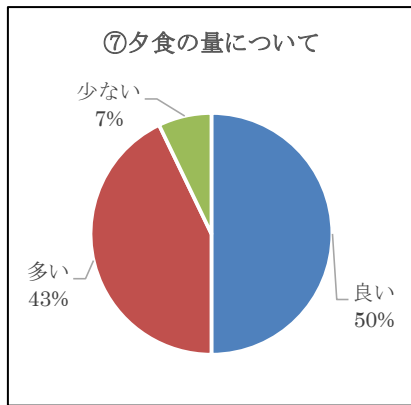
食事形態（平成 30 年 3 月 31 日夕食現在）



◇ケアハウス満足度調査（嗜好調査）結果

平成 30 年 1 月実施 回答率 100%





***今後希望される料理**

- ・刺身 ・うなぎ ・カレー ・かやく御飯 ・温泉玉子
- ・マーボー豆腐 ・ギョーザ ・野菜を炊いた物
- ・焼きそば ・きしめん

***食事についての満足度を 100 点満点で評価 平均 80.1 点**

***その他、食事に関する御意見、御希望（抜粋）**

- ・旬のものを出して頂き有難い。 ・全体的に品数が多く残してしまうこともある。
- ・味の好みは個人差があり一概には言えない。 ・朝のお粥を大盛にして頂き満足している。
- ・野菜で固い物がある時は食べにくい。 ・御飯がかたい時がある。

○ボランティア部門

ならやま園では、個人又はグループでボランティア登録をしていただいたあと、様々な場面で活動をお願いしている。午後からの喫茶コーナー、コーラスや楽器演奏、書道や生け花など、利用者には大変、喜んで頂いている。今後も活動を継続して行きたいと考えている。

月別活動延べ人数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
29年度	125	127	118	124	126	146	114	120	109	117	118	120
28年度	124	132	156	138	130	135	144	188	110	110	123	133

集計

	年間延人数	月平均	1日平均
29年度	1464	122	6.1
28年度	1623	135	5.6

ならやま園ショートステイサービス（定員 16 名）

H29 年度は前年度に比べ、利用者数は増加、新規登録者も増加したものの、1 人あたりの利用日数が少なく、定期利用者の入院や体調不良が続いたこともあり、前年度より稼働率も減少した。

（1）新規利用者の確保、職員やサービスの質の向上

H28 年度の新規契約者が 21 名であったことに比べ、H29 年度は 45 名と大幅に増加。登録者を増やしていく事で今後の継続利用が期待でき、安定した利用に繋がると考えている。また利用者や家族からのご意見等も速やかに職員間で共有し、サービスの質の向上に努めてきた。

(2) 空きベッドの積極的な利用

空きベッドを積極的に利用し、各部署と連携を取りながら緊急の受け入れにも対応してきた。独居の方や高齢者夫婦など、在宅での生活が困難となるケースも多く、各事業所や家族とも連携をとり、出来る限り受け入れできる体制を整えた。

(3) 家族、関係機関、職員との連携

また家族や各事業所、関係各機関ともこまめに連携をとり、利用者が安心して利用できる生活空間の提供に努めてきた。

年間稼働率・介護度別利用者数

	延利用 日数	稼働率	延 利用者 数	身障	介護度別利用日数						
					要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
29年度	5188日	88.8%	459人	0日	0日	24日	147日	378日	1704日	1857日	1078日
28年度	5649日	96.7%	441人	0日	0日	0日	157日	234日	1970日	2789日	499日
増減	-461日	-7.9%	18人	0日	0日	24日	-10日	144日	-266日	-932日	579日

ならやま園デイサービスセンター（定員 39 名）

(1) ご利用者の満足に繋げるための選択できる環境作り

H29年度は余暇時間に、利用者自身で選んで頂ける仕組みを取り入れた。パズルや雑誌・塗絵・問題集等の脳トレ等、種類を増やす事で選択できる環境が今まで以上に提供でき以前に比べ利用者から「何もする事が無い」と言った発言を聞く事が減った。今後も利用者のニーズをくみ取り提供していきたいと考えている。

(2) 営業活動の強化

奈良デイサービス休止に伴いならやま園へ移行された利用者もいるが、外部の居宅ケースが前年度に比べ倍になっている。体験利用無料化がケアマネージャーへ浸透してきた事や包括支援センターを始め新しい居宅支援事業所からの紹介が増えたことが要因として考えられる。今後もケアマネージャーへのアプローチをしていきたいと考える。

(3) 職員の育成及び介護技術・サービスの向上

作業療法士から、利用者の支援に対して負担の少ない介助方法についてその都度説明や実演指導を受け、介護技術を高めている。また、リスクを把握した介助も浸透してきている。サービス向上については、毎朝のミーティングでミスを共有し、月1回の会議で統計を取り事例検討を行うなどしている。今後も、利用者への満足度の向上に努めていきたい。

要介護度別利用者数								合計	営業日	平均/ 日
年 度 別	要支 援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	身障			
29年 度	463	1,355	3,354	1,642	1,296	637	0	8,747	309	28.30
28年 度	538	1,145	2,299	2,170	1,722	572	0	8,446	309	27.33
増減	-75	+210	+1055	-528	-426	+65	0	+301	0	+0.97

ならやま園ホームヘルプステーション

平成 29 年度当事業所においてはサービス提供責任者 3 名と非常勤ヘルパー 9 名での職員配置で事業を実施した。29 年度は新規ヘルパーの登録が 1 名あった。

現在登録しているヘルパー何名かは定年退職の年齢に近づいており、新規ヘルパーの確保が大きな課題となっている。

(1) 利用者のニーズにあったサービスの提供

登録ヘルパーより、利用者の状況の変化はよく報告がなされており、早期受診・入院により、大事に至らなかったケースも多々あった。利用者のニーズにあったサービスの提供ができるよう関係機関との連携を密に行い、サービスの内容の変更や派遣時間、回数の変更等きめ細かく調整して緊急時や臨時利用にも対応してきた。

(2) 介護サービスの充実・向上への取り組み

認知症を有する独居高齢者にふさわしいサービスの提供を行い、新規ケース、困難ケースの受け入れにも積極的に対応した。また、登録ヘルパーからの報告、連絡や訪問時の身体、生活状況の変化等を担当ケアマネジャーや各専門職種に報告、相談させて頂き迅速な対応を心掛けた。

今後もヘルパーの訪問を心待ちにしてくださるご利用者の為ニーズにお応えできるような支援を提供していきたいと考える。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
29年	6297	2077	8374
28年	6081	2015	8096
増減	+216	+62	+278

ならやま園居宅介護支援事業所

(1) 地域包括支援センターとの連携

介護予防ケアマネジメントに関しては平城、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、京丹後市と給付管理を伴う連携をおこなった。給付管理には至らないが必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。

(2) 居宅介護支援事業所としてのレベルアップ

継続して週 1 回、ケアマネージャー会議を行っている。平成 29 年度は 52 回開催し情報共有

等に努めた。事業所外研修に関しても積極的に参加し情報共有に努めた。

(3) 地域活動の参加

前年同様、定期的に地域ニーズを把握出来るように決まった担当者が地域活動に参加することが出来た。定期 1ヶ所が地域の事情により平成 28 年度で終了したため、定期参加（月 1 回程度）が 3ヶ所、不定期参加（年 1.2 回）が 2ヶ所、積極的に参加した。

(4) 介護ケアマネジメントと適正化について

引き続き相談も多種多様化し、サービス調整も複雑化してきている。自立支援と求められるケアマネジメントが一致しない情勢であるがケアマネジメントの根底にある利用者本位、利用者の持っている力を活用した生活の質の向上がケアマネジメントの中心であることを忘れず支援をおこなった。

(5) ケアプラン作成件数と認定調査について

ケアマネジメントの質の向上の一つとしてケアマネジメント業務に支障が出ないと考えられる件数（1人4件程度）を年間通しておこなうことが出来た。奈良市以外の調査に関しても依頼に応じて対応した。後半にケアマネージャーの退職に伴い、ケアプラン作成件数が減少している。

利用者延件数（ケアプラン作成）

	予防	要介護	計
29 年度	638	1843	2481
28 年度	722	1955	2677
増減	-84	-112	-196

認定委託件数（市町村委託総数）

29 年度 計	239
28 年度 計	238
増減	1

ケアハウスニューライフならやま（定員 15 名）

入居者様ひとりひとりの思いを尊重しつつ、身体面・精神面の観察を重視し不安な無く生活して頂ける様心がけた。しかし、自立した生活に少し不安があり介護保険を利用される方が増えている。今後もケアハウスでの生活に不安なく過ごして頂ける様、本人様と話し合い又、家族様、介護支援専門員との連携を取り支援を行っていききたい。

介護度（平成 30. 3. 31 現在）

	自立	要支援	介護 1	介護 2	介護 3	合計
男 性	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
女 性	2 名	3 名	5 名	5 名	0 名	15 名
小 計	2 名	3 名	5 名	5 名	0 名	15 名

福寿会配食サービス（奈良市委託事業）

例年通り奈良市の委託事業としての配食サービスと、市のサービス受給条件を満たさない自費による利用者への昼食配達を実施した（土・日及び 12/31～1/31 休み）

29 年度からは、「福寿会配食サービス」として事業を展開してきた。今後も配達時に日々の変化を見逃さないように見守りを行い、関係機関と連携を取って行きたい。

(1) 配食サービス実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託 配食数	752	836	808	765	832	746	773	769	713	657	641	686	8,978 (前年比+2654)
自費による 配食数	436	507	472	444	539	534	469	453	445	414	400	421	5,534 (前年比+2527)
合計	1188	1343	1280	1209	1371	1280	1242	1222	1158	1071	1041	1107	14,512 (前年比+5181)
配食日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	20	22	257
1日平均 配食数	59.4	58.3	58.1	57.5	59.6	60.9	56.4	55.5	55.1	53.5	52.0	50.3	56.46 (前年比+22.46)

(2) 奈良市よりの新規委託件数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規 件数	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	4 (前年比+0)

3) 平成 29 年度利用者数 (平成 30 年 3 月 31 日現在配食者数)

- ・奈良市委託分 60 名 (前年比 +29 名)
- ・自費 44 名 (前年比 +20 名)

□委員会活動

(研修委員会)

毎月 1 回の会議を通して、施設内研修の計画を行っている。研修の講師については、各フロアから担当を決め、自ら勉強をしたことを伝えている。伝え方にも進捗が見られ、グループワークで自分の思いを語り、改善点を見いだせる研修となりつつある。

毎年行っている中堅職員研修については、他部署研修を中心に行った。自身のフロアだけでなく他部署の利用者や環境の違いを知ること、自身のフロアの強みや弱みを知り、利用者の生活の向上に繋がるように意識改革が行えているように思う。

今年度は法人研修として「環境がケアを変える！」と題して山下総司先生をお迎えし、1 年を通して指導して頂いた。20 年を迎えた当園のハード面の改革を行うことで、職員の意識、利用者の生活環境の向上に繋がった。来園度も引き続き継続していきたい。

来園度も職員の学ぶ意欲を高め、仕事に対するモチベーションの向上と、利用者へのサービスの向上を目指して活動を行っていききたい。

(感染症委員会)

毎月一回、理事長、看護師、栄養士、各部署の職員が集まり、利用者様と職員の健康状態についての報告や感染症の情報交換を行った。委員会として毎月目標を掲げ、各部署内に掲示することで、感染症に対する意識を高めている。

インフルエンザが大流行した今年度、利用者から感染者が出なかったことは職員の感染症予防に対する意識が向上したと考えている。

来年度は委員長に看護主任が就任し、より一層、看護・介護の連携を図り利用者の感染症の予防に努めたい。

(危機管理委員会)

毎月1度、各部署から担当の職員が集まり、事故の報告、対策について話し合いを行っている。転倒や疾病、内出血など日々の対応について、今後、起こらないように小さなことから発見できるように啓発に努めている。また、どの場所、どの時間帯、どの人が、などの統計を取り人員の配置を見直すことで事故の予防に努めた。

今年度も6月と10月に防災訓練を行った。6月には夜間の火災を想定、10月には昼間の火災を想定し行った。限られた職員数の中でいかに利用者を守れるか、「どこに」「誰に」連絡をし、誰が指揮を取っていくのか。今後、起こりうる大規模災害に備えてまだまだ課題を感じたが、利用者が安全に暮らしていけるように対策をしっかりと講じていきたい。

特別養護老人ホーム平城園（定員 110 名）

○介護部門

- (1) 新築工事に伴い、5月にフロアの再編成を行った。課題や変更点も多く生まれたが、柔軟に対応出来た。本年度の新築移転に向け、対応力を養えた。
- (2) 施設内外研修へ積極的に参加した。年度法人研修として『施設環境づくり』を全員が受講。新たな視点を養えた。また、キャリアアップ支援制度も活用し、新規施設の開設も見据えた人材育成に努めた。
- (3) 医療部門との連携を密に取り、医療ニーズの高まりに対応した。質が高く、ミスのないきめ細やかな医療的ケアを実践した。
- (4) 大規模災害に備えた防災及び防災計画を見直し、地域拠点としての機能強化を図った。

○介護サービス支援室

今年度は、新設工事中のため、それらに伴う様々な事象に都度対応してきた。

- (1) 新設工事のため、フロアの再編成を行い、一時、ベッド数を減調整等が必要な混乱期もある中、運営基盤の安定を目指し、稼働率の維持、向上を図った。
- (2) 新築工事に伴う新たなリスクにも対応しながら、リスク管理、法令遵守の確認を行った。
- (3) 先に繋がる人材育成を見据え、各種研修の充実や適切な人員配置の検討を行った。

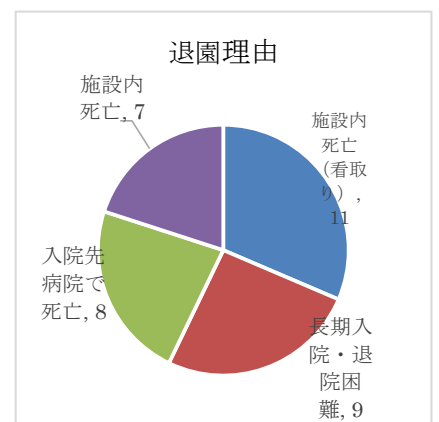
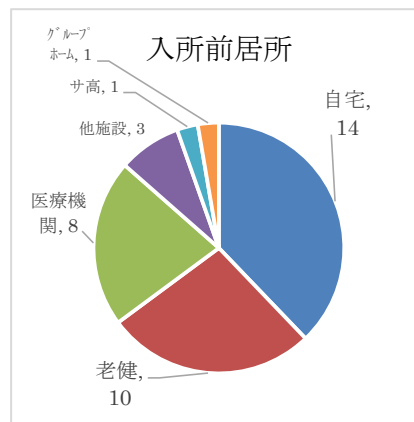
在園年数 (30.3.31 現在)							※30年3月31日時点で空床3床有り	単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年 以上	合計	
男性	14	11	1	2	0	0	28	
女性	18	26	15	15	3	2	79	
合計	32	37	16	17	3	2	107	

平均在所日数 ■男性 1年5ヵ月20日 (536日) □女性 3年2ヵ月9日 (1163日)
平均2年8ヵ月26日 (999日)

入所者年齢構成 (30.3.31 現在)								※30年3月31日時点で空床3床有り	単位：人
	70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合計	
男性	2	2	9	6	4	5	0	28	
女性	1	7	8	8	27	17	11	79	
合計	3	9	17	14	31	22	11	107	

最低・最高年齢 (30.3.31.現在)			単位：歳
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	60	94	80.9
女性	69	103	86.6

入退園の状況 (年間)		
	性別	年間 合計数
新規 入居者数	男性	17名
	女性	20名
退園者数	男性	9名
	女性	26名



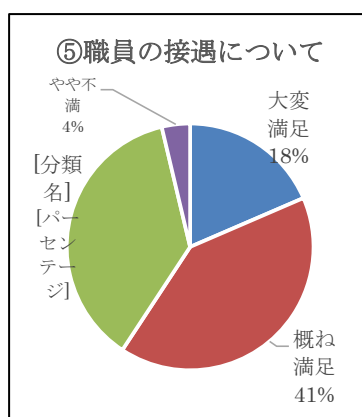
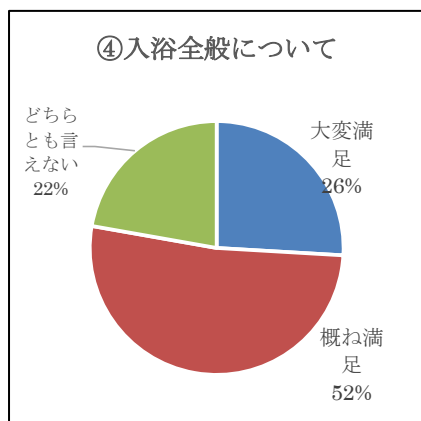
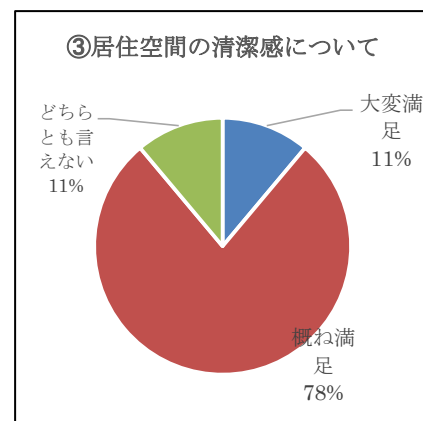
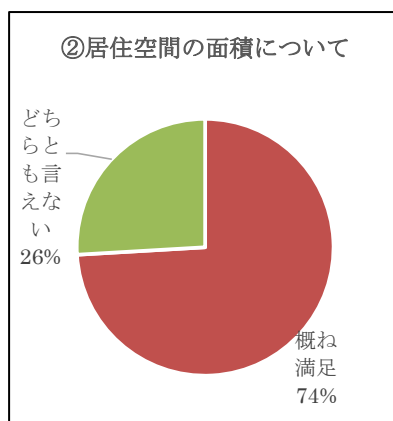
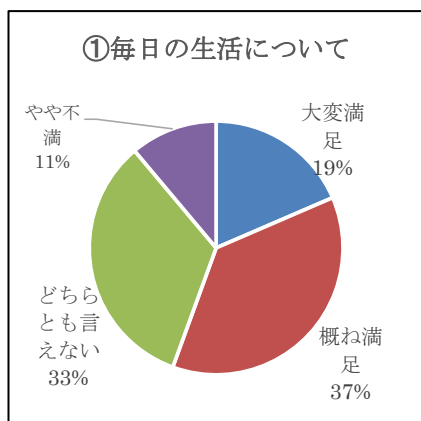
入園者介護度別延べ人数 (30年3月31日現在)							
年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	介護度平均
H28年度	365	1595	10081	14896	11317	38109	3.92
H29年度	365	1945	11496	14203	9190	37199	3.80

◇特養 満足度調査

調査目的：今年度は、新築工事に伴い、居住空間の減少があり、利用者には様々な負担をおかけしていることが予測される。利用者の満足度を調査し、より快適に生活して頂くために改善点も探るため、

ご利用者にアンケートを実施した。

※下記5項目について、1.大変満足 2.概ね満足 3.どちらとも言えない 4.やや不満 5.大いに不満の5段階評価にて回答してもらった。(平成30年3月実施、n=27)



アンケートにて頂戴したご意見（抜粋）

<毎日の生活について>

- ・外で散歩がしたい。
- ・暇なので何かしたい。

<居住空間について>

- ・食事場所が狭い。

<入浴について>

- ・個別対応してもらえ嬉しい。
- ・入浴時間がもう少し長くなれば良い。
- ・今のお風呂の方が以前（工事前）より良い。

<職員の接遇について>

- ・気が付く
- ・優しい
- ・親切
- ・職員はいい人ばかりだが、人数が少ないため気を遣う。

<その他>・新しい施設が出来るのが楽しみ。

○看護部門

目標：利用者の人権を尊重し「安全・安心」「納得・信頼」のある看護を提供する。

(1) 利用者の健康管理と異常の早期発見に努める。

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、日々の状態観察を行い利用者の変化を速やかに医師に報告し、指示のもと健康保持に努めた。

基礎疾患を有する利用者が多い。一人が複数の診療科を受診するケースも多く、医療機関への受診は(定期通院・検診レントゲンを含む)、587件、入院した利用者は(定期の胃瘻交換も含む)51名だった。(表1と表2)

医療的ケア(痰の吸引・経管栄養)の研修については、本年度は5名の介護職員に対し指導看護師による実地研修を行った。

(2) 感染症の対策

1月上旬1階職員にインフルエンザ発症があった為、1階のみ利用者の面会の中止と、入浴・喫茶・リハビリを中止すると共に職員各自の感染予防対策を徹底した。また1階と2階フロア間の往来をしない様に留意した。

2月に入り2階中央棟利用者に、続いて1階の利用者にインフルエンザ発症した為、インフルエンザ罹患者の居室隔離と、全棟の面会・入浴を中止し対応、職員の手洗い・マスク着用・消毒・換気・湿度調節を行った。

インフルエンザ感染者の終息と熱発者のない状況となり、3/6には中止事項が解除される事となったが、引き続き手洗いの徹底と環境整備に努めている。

感染対策委員会を中心に研修委員会との連携に於いて園内研修を行い、感染マニュアルの周知を図った。

(3) 利用者・ご家族の納得いただける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた方は17名(前年度22名)、うち看取り介護を受けられたのは11名だった(前年度19名)。

園での看取り介護を受けられたご家族からは、常勤医師による説明や診療所での対応に安心されている事や、職員の丁寧な説明や対応に満足しているとお言葉もいただいている。

偲びのカンファレンスに参加しご家族と共に故人を偲び、ケアの振り返りの場として今後のケア向上に繋がるよう努めた。

(4) 褥瘡発生予防の体制

多職種協働により連携を図り褥瘡の発生を予防した。3件の褥瘡の発生はあったが早期発見、適切な処置を行い治癒する事が出来た。

褥瘡に対する研修会を行い今後の褥瘡予防に対し認識を深めた。

表1 <利用者の受診・入院状況>

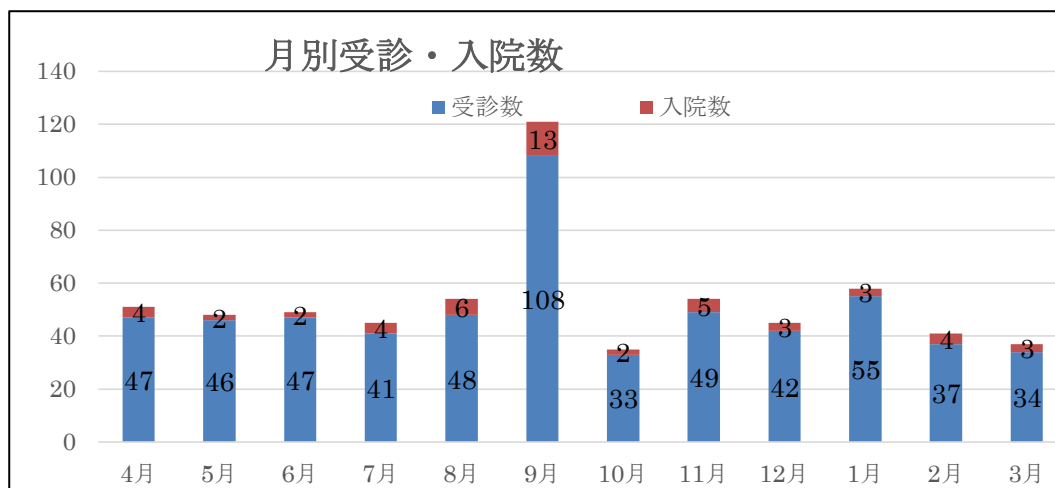
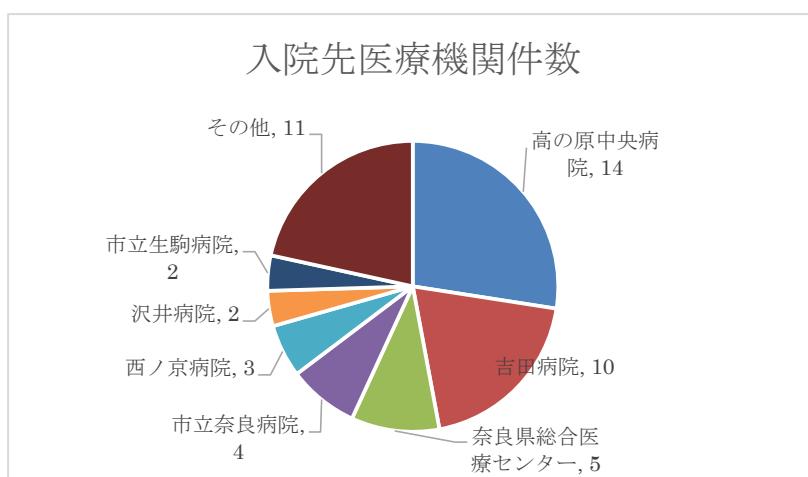


表2 <入院医療機関>



○個別機能訓練部門

平成29年3月10日以降はリハビリ室での訓練からフロアへの訪問となり、環境の変化や空間があまりなく戸惑うことが多かったが、徐々に慣れてこられ、生活のリズムも出来てきた。

生活リハビリを充実させることで、ADLの維持が出来た。リハビリでの個別訓練が、生活の場で活かせるよう、他職種と連携・協働し、ADL（日常動作能力）維持、向上を目指した。

(1) フロアでの生活リハビリを充実させる。

生活リハビリは、利用者全員の方を対象に、介護士との協力で実施することができた。

(2) 利用者のできることを増やし、満足度・自立度を高める。

できることが、1つでも増えると喜びになり、訓練に対する意欲がでて満足して頂くことができた。できることが増えると、介護量の減少にもつながった。

(3) 拘縮予防のため、最低1日1回の離床を定着させる。

全フロア離床はできているが、数名の方の離床の定着ができなかった。

(4) 離・臥床時の安楽な体位と良肢位の保持。

車椅子移乗時の傾きやずれ等は、都度補正し良肢位の保持に努めた。臥床時も安楽な体位で休んで頂けるよう努力した。

	居室訓練（フロア）				ベッドサイド（居室）				合計（人）
	一階	中央棟	西棟	東棟	一階	中央	西棟	東棟	
29年度	2,542	2,260	2,181	107	716	573	246	6	8,631
28年度	3,816	3,841	4,967	4,615	893	741	605	103	19,220

○栄養管理部門

（1）食べて頂ける食事の取り組みについて

旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。又、利用者に適した食事形態や個人の嗜好・療養状態に配慮し、心身の満足と栄養状態の改善に取り組めた。

（2）栄養ケアマネジメントの実施

介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に、カンファレンスの中で入園者又は家族の要望や同意を得る事により効果的な栄養ケアマネジメントが実施できた。

（3）災害用の備蓄について

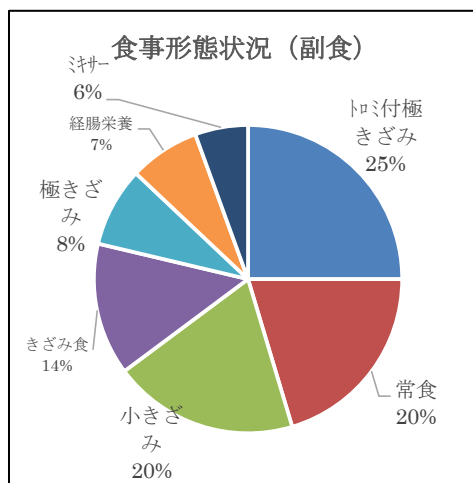
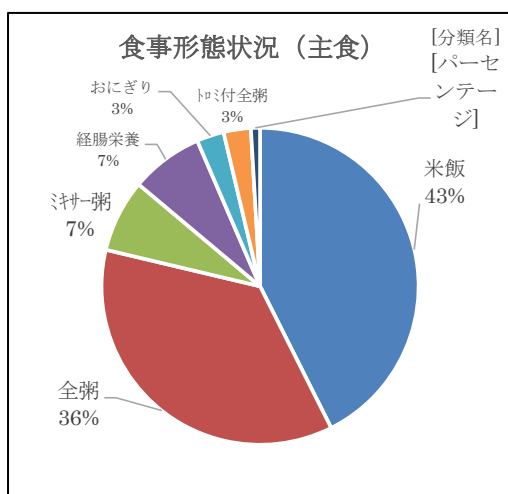
災害に備えて、3日分（9食分）の備蓄内容の見直し、備蓄食品の保管場所と使用方法を給食会議で確認し、多職種での情報共有を実施できた。

△療養食加算実施状況 30年3月末時点人数(実人数 12人 11.2%)

療養食名	人数	療養食名	人数
糖尿病食	8人	貧血食	1人
脂質異常食	1人	心臓病食	2人

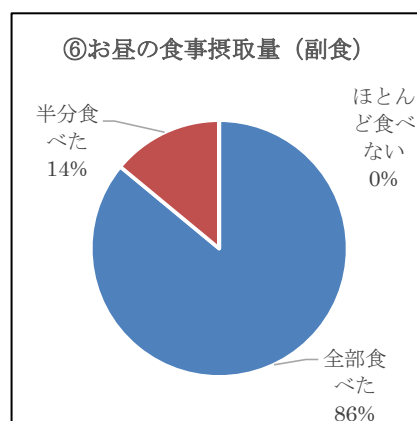
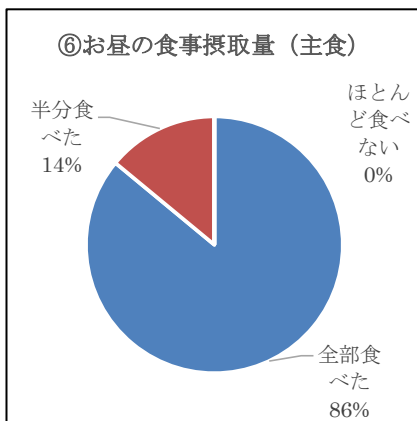
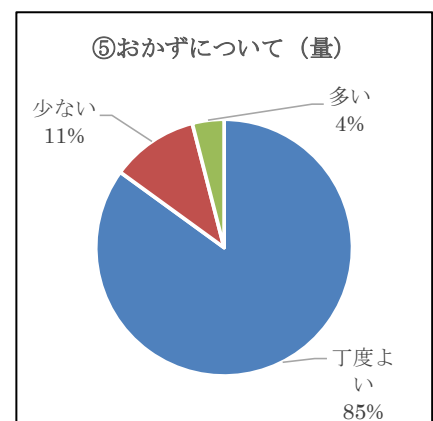
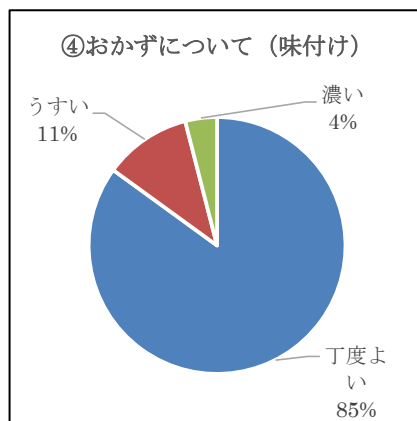
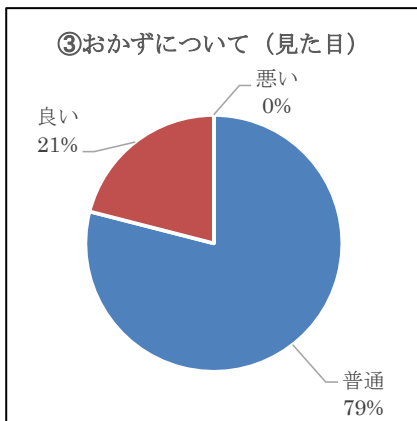
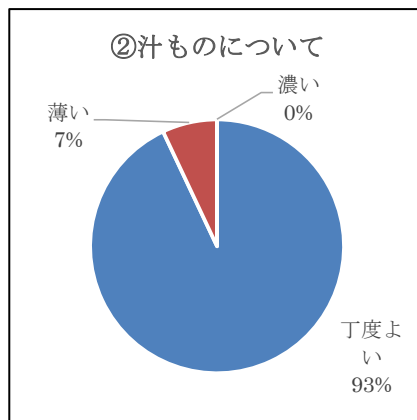
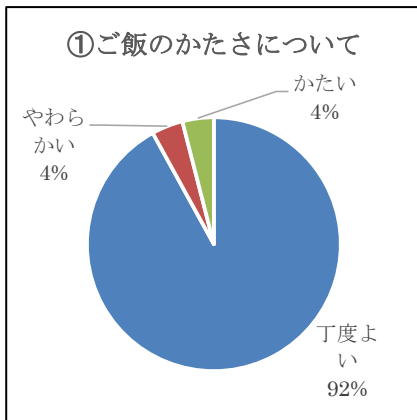
△経口維持加算 29年度実施状況（平均人数4名 3.7%）

<平成30年3月 食事形態状況(個別対応)>



◇食事 満足度調査

今後の献立の作成や、調理の参考にするため、下記5項目について、3段階評価にて、アンケートに回答頂いた。(平成30年2月の昼食後アンケート実施。N=28)



アンケートで頂いたご意見 (抜粋)

- ・味付けが美味しい。・パンが好きなので、昼食でも食べたい。・旬のものがおいしい。
- ・鍋ものが食べたい。・青菜の繊維が噛み切れなくて残ってしまう。

○ボランティア部門

今年度は新築工事に伴いボランティアの受け入れを休止していたが、既存の環境の中で楽しみのある生活が送れるよう、居室訪問と喫茶室での飲み物の提供や、傾聴の時間を設ける活動を実施し利用者に喜んでいただけた。

平成 29 年度月別喫茶利用人数（単位：人）											
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
703	673	883	748	773	825	900	925	836	937	772	1055

奈良デイサービスセンター（定員 25 名）

今年度は新施設建築工事に伴い、4 月より「ならやま園」にて移転営業を行った。移転に伴って利用者の流出は無かったものの、新規利用が伸びない中、入院・施設入所等での利用中止により純減となった。

12 月度を持って、新施設に向け、事業所としての再整理の為休止となった。

既存の利用者については、「ならやま園デイサービスセンター」、又は他事業所へ引継を行った。

- (1) 施設移転に伴う環境変化により、ストレスや不満無くご利用頂けるよう、全職員が日々のケアの中で利用者の声に耳を傾け、定例会議の場にて情報共有を図ってきた。慰問・レクリエーション等、以前から実施していた物についても可能な限り継続して提供し、外部ボランティアのご協力も引き続き頂く事が出来た。
- (2) 月の定例会議・法人研修へは、常勤・非常勤を問わず可能な限り職員の参加を図った。会議の場を通じ、職員間の意識統一と情報共有を図る事が出来た。言葉遣い等、接遇については OJT での指導を基本とし、都度責任者から指導する事で改善に努めた。

年度	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	営業日数	平均/日
29 年度	320	298	1020	451	292	150	2531	232	9.53
28 年度	411	479	2214	1134	349	263	4850	308	15.85
増減	-91	-181	-1194	-683	-57	-113	-2319	-76	-6.32

※29 年度：4～12 月実績

平城園ホームヘルプステーション

- (1) ヘルパー会議の全員参加の徹底に努め、周知事項に努めた。
- (2) 利用者満足度の向上の為、アンケートの実施を行った。利用者ニーズに寄り添いサービスの質の向上を図る予定。
- (3) 介護予防・日常生活支援総合事業への参入をし、地域包括センターまたは他事業所と信頼関係を築き、迅速な連絡対応に努めた。
- (4) ヘルパー人材確保について、チラシの作成・配布を行った。今後も、登録ヘルパー獲得を継続実施していく。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
28 年度	7072 件	2473 件	9545 件
29 年度	6738 件	2330 件	9068 件
増減	-334 件	-143 件	-477 件

※障害者総合支援事業 8 件

平城園ショートステイサービス（特養空床利用）

本年度は新築工事のため、ショート専用ベッド（3床）は稼働せず。入院や退園空床利用しながらの稼働となった。問い合わせ時、空床の予測困難で、ニーズにお応えすることが難しい状態続いた。特養全体の稼働率に大きく貢献とまではいかなかったが、年間 251 床（月平均 20.9 床）のご利用を頂いた。

平城園在宅介護支援センター

平成 29 年度は、平城園居宅事業所としての専門性を高め、地域医療機関等との多職種とも連携を図り、介護サービスの質の向上と信頼性のあるマネジメントで評価を下げないように努力してきた。

- 1) 介護予防マネジメントについては、「特定事業所集中減算」減算もなく各担当者がチームとしての連携を取りながら、適正化に努めることができた。
- 2) ケアプラン件数に関しては、前年同様担当者の人事異動等による減少となった点、今後も新規開拓へ努力が必要である。
- 3) 地域包括支援センターとの連携については、平城、北部、二名、登美ヶ丘、富雄西、伏見との予防マネジメント等において情報の共有に努めたが、介護予防者のケース対応に繋がりに難かった。
- 4) 居宅事業所として組織マネジメントについては、人材育成も含めた職場の環境作りにも今後取り組むことで、個々の能力が発揮出来つつあると確信している。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	介護	計
29 年度	315	1282	1597
28 年度	361	1502	1863
増減	- 46	- 220	- 266

認定委託件数（奈良市委託）

29 年度計	120
28 年度計	133
増減	-13

ヴィラ秋篠

奈良市下においてここ数年、サ高住や住宅型有料老人ホームの新設が続いていたが、その中であって自立型のサ高住であること、「いつまでも・安心できる・自由な住まい」というコンセプトを掲げての継続的な営業活動も行うことで、市内の包括や居宅事業所への認知度はかなり向上し、他事業所からも評判を耳にする機会が増えた。

また 11 月には初めての行政による法定立入検査が実施された。改善指導項目はゼロで、法に則って適切に運営できていると一定の評価をされた。

サ高住の全国平均入居率は 76.8% であり、比較すれば成功してはいるが、制度創設期に比べサ高住そのものに対する、評価や取締りの目は年々厳しさを増しており、その時代に応じた住宅としての在り様や、コンプライアンスを順守したうえでの質の高い住まい方の提供が求められてくる。その中であって、過去 2 年間入居率 100% を達成していたが、紹介先についてはある程度固定化されていた。その為、新規紹介先の開拓を念頭に営業を実施した。最初はこちらの今までの営業から入居までの流れとリズムにうまくかみ合わないこともあり、また毎月のように解約者が続いたこともあり上半期は入居率 100% を維持することができなかった。しかし、下半期には入

居率 100%へと回復させることができた。それに伴い、新規の紹介先も増加傾向にあり、営業の成果が徐々に表れ始めている。

・月別入居契約数（契約戸：1日締め ・ 契約率：実数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	平均
契約戸	45	45	45	45	45	46	46	46	46	46	46	46	45.58
契約率	99.0	97.8	97.8	98.4	97.8	98.4	100	100	100	100	100	100	99.1

- ・年度内退去者 9件（名）・・・ 男性1名 女性8名
退去先内訳 ・福寿会特養1名 ・病院1名 ・在宅復帰3名 ・他サ高住1名
・館内移動（居室変更）1名 ・死亡2名
- ・年度内契約者 9件（名）・・・ 男性1名 女性8名
契約動機内訳 ・福寿会関係者紹介 1名 ・他法人事業所（居宅等）紹介 2名
・包括紹介 1名 ・その他 5名
- ・契約者数内訳：人

性別	契約数
男性	11
女性	37
合計	48

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく） 平均年齢歳

性\年代	60歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上 85歳未満	85歳以上	合計
合計	0	2	18	28	48

・介護度別内訳：人 平均介護度：支援2

性\度	自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
合計	10	4	3	12	12	6	1	0	48

- ・福寿会在宅部門利用者数 内訳 ・居宅・・・19名 ・訪問・・・14名 ・通所・・・4名
- ・食事 契約者数・・・39名 自炊者・・・9名
- ・食事提供数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	804	796	749	761	762	737	755	744	775	702	664	744	8993	749	24.7
昼食	812	786	750	765	764	707	768	760	823	760	737	798	9230	769	25.3
夕食	1061	1066	1037	1058	1029	989	1015	1002	1049	974	929	1005	12214	1018	33.5
月合計	2677	2648	1037	2584	2555	2433	2538	2506	2647	2436	2330	2547	30437	2536	83.4

・生活相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
件数	133	155	161	184	162	142	135	171	216	228	206	233	2126	177

・健康相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
件数	3	3	1	2	1	0	1	0	0	1	1	1	14	1.1

・有償サービス利用件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
件数	63	54	69	32	61	55	64	60	49	69	60	82	718	59.8

・入居活動件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
営業	15	2	56	37	17	25	15	7	43	22	29	23	291	24.3
問合せ	8	6	6	7	7	10	8	3	9	4	3	7	78	6.5
見学	4	4	3	5	4	4	3	3	5	3	4	3	45	3.8
見学者	5	5	4	8	9	7	5	7	7	5	5	6	73	6.1
入居相談 面接	5	6	8	9	9	15	12	9	11	9	13	13	119	9.9

・イベント実施報告

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
実施数	32	20	23	22	24	24	22	26	22	11	18	25	269	22.4
参加者	289	194	206	186	212	210	191	174	185	97	169	202	2315	193

・生活支援バス利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H30.1	2	3	合計	平均
西大寺	48	41	47	38	41	38	38	51	37	38	35	36	488	40.6
高の原	33	22	23	10	9	8	16	10	13	15	22	17	198	16.5
買い物等	55	61	57	67	53	70	67	61	70	42	74	61	738	61.5
合計	136	124	127	115	103	116	121	122	120	95	131	114	1424	118.7

平城園診療所

利用者の健康管理と、日常的な治療を重点的に行い、重症者については関連病院との連携により対応した。常勤医師・診療所医師・特養看護師と共に疾病予防医療についての運営を行い、福寿会衛生管理者との連携を図り、全職員の健康診断を始め、健康管理を実施し、業務による疾病予防にも努めた。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
28年度延人数	6,870	216	533	7,619
29年度延人数	6,946	177	426	7,549

□委員会活動

(感染症対策委員会)

感染症予防として、職員出勤時の手洗い励行・マスクの着用の徹底し、職員の体調管理にも注意しつつ感染予防に努めた。また、感染症についての職員研修を実施し、感染症に対する知識を深めることはできた。しかし、2月に入り職員や利用者にインフルエンザによる感染が数名確認され、園内での感染蔓延を防ぐべく、全職員が協力し対応に努め集団感染することは防ぐことができた。

(リスク対策委員会)

毎月の定例会議にて、各フロアのヒヤリハット・インシデント・アクシデントの報告及び検証を行い事故の再発に努めた。また、新設工事の影響での環境の変化や利用者のADLの低下などにより、転倒・転落等の事故が増えてきている為、個々に合わせた事故防止策をその都度検討し、対応していかなくてはならない。

(研修委員会)

目標に挙げていた「知識の最確認を行い、より良いケアを提供する。」は、概ね達成できた。園内研修の場では、マナー研修・褥瘡対策ケア・感染症対策・身体拘束廃止・虐待防止・看取り介護・事故発生防止などの研修を実施し、グループワークを取り入れることで知識を基に根拠のある考えたケアが大切であることを全職員が意識できた。また新しい施設に向けてのユニットケアの勉強会も実施しており、次年度も職員への理解、浸透を図る。

□平成29年度実習生受け入れ状況

学校名等	ならやま園		平城園	
	人数	期 間	人数	期 間
奈良大学 (教員免許実習)	4名	平成 29.7.10～14(5日間)		
	4名	平成 29.8.21～25(5日間)		
	4名	平成 28.9.4～8(5日間)		
	4名	平成 28.9.11～15(5日間)		
	4名	平成 28.9.25～29(5日間)		
奈良県職員	18名	平成 29.6.22～30(6日間)		
介護労働安定センター	3名	平成 29.9.25～29(5日間)	2名	平成 29年 9.25～29(5日間)
平城中学	4名	平成 28.6.6～8(3日間)		
奈良県社会福祉 協議会			2名	平成 29.8.9～10(2日間)
			2名	平成 29.8.14～15(2日間)
日本メディカル専門学校			1名	平成 29.10.10～平成 30.1.16(24日間)
種智院大学			1名	平成 29.8.10～9.12(23日間)